

第四十二日目

師 範：8代将軍吉宗は家康の政治を理想として、改革をおこなった。

幕府の収入源である年貢が思うように増えないのに、現金支出は増えていく状態でした。幕府の財政を立て直すことは重要な課題でした。幕府を支える御家人たちや武士は、生活に困っていました。



吉宗は米価を上げるようにして、武士の生活をうるおうようにしました。

しかし米価が上がれば、町人や貧しい人々は米が買えなくなって生活がなりたたなくなります。このような矛盾がありましたが、吉宗は幕府と武士を救うほうを大切にしました。

また火事にそなえて火消しの制度をつくり、目安箱をつくり、裁判の公平をはかるように裁判の判例や資料を整理させました。

この吉宗が行った享保の改革は1716年から始まりました。

1716年 吉宗が享保の改革をはじめます。

この年を覚えましょう。

ペン太：むずかしい。



「享保の改革でもういないろくでなし」

「いない」で171,「ろく(でなし)」は6なのですが。

師 範：苦勞の跡がみられます。

しかし「ろくでなし」というのが、改革の内容と結びつきにくいね。

コン太：では、わたくしが



「吉宗しかいない 無理な改革できるのは」

171は「いない」と読みます。「む(り)」は6です。

相当な覚悟がないとできない改革でした。

ペン太：再び挑戦します。

「享保の 一難とろう 吉宗が」

「いち」は1で、「なん」は7で、「と」は10で、「ろ」は6です。

すこし苦しいです。

師 範：享保の改革は、将軍みずからが行った改革でした。

改革の成果はあがり、財政は改善しました。

ただし、吉宗の時代が終わると、また悪くなりました。

寛政の改革は將軍家に近い家系出身の老中が行った改革でした。
天保の改革は老中という役人が行った改革でした。
享保の改革のみが成果を出した改革といわれます。
このような事情をいっているのですね。